



相



CONTENTS

- 理事長ご挨拶・副院長ご挨拶・
新入職員インタビュー p2
- HPVワクチンについて p3
- オミクロン株対応ワクチン接種開始について p4
- 訪問看護ステーション p5
- フロリール調布（通所リハビリテーション） p5



桐光会 理事長に就任して

前理事長の引退に伴い、今年度より理事長と院長を兼任することとなりました。

私は調布市で育ち、現在も市内に住んでおります。そのためか、市民としてもこの地域に対する愛着が人一倍あります。新型コロナウイルス感染症が拡大した時も、地域のみなさまに検査や診察を受ける場所を提供し、一人でも重症化を予防できるよう地域貢献したいとの思いから、できる範囲で、発熱外来、入院設備（陰圧室）の整備、ワクチン外来を行ってまいりました。

今後は後進の医療従事者育成のため、コロナ禍で中断していた学生実習も再開していく予定です。

さて、自身が中高年と呼ばれる年齢になり、最近は「地域包括ケアシステム」や「ACP（アドバンスケアシステム）」について考えることが多くなりました。

「地域包括ケアシステム」とは、地域の皆様が住み慣れた場所で安心して年を取っていくための仕組みで、介護と医療が重要な役割を担っています。



山田 亜矢

例えば、年齢を重ねると、それまで健康だった方も、何らかの健康上の問題を抱えるようになることが予想されます。遠くの大病院まで通っていた方は、より住まいに近い医療機関のほうが体力的に通いやすくなる可能性があります。

その際に、ご家族や医療・介護従事者と相談しながら、今後の自分の人生を自分らしく生きていけるよう自分で選択して決めていくのが「ACP」です。

桐光会には、病院部門・訪問看護部門・老人保健施設部門があります。何かお困りのことがあれば、ぜひお力になりたいと思いますので、医療連携室までご相談ください*。

今後も地域社会に貢献できることは何かを考えながら、職員一同努力してまいります。

※ご相談先 TEL: 042-484-2513

MAIL: msw@tokokai.or.jp

理事長ご挨拶

消化器外科副院長 外川 明先生

2022年7月1日より採用いただきました外川明です。専門は外科・消化器外科です。

出身地は横浜、出身大学は千葉大学です。長らく大学医局に所属し、いわゆる医局人事で移動していましたが、この度、縁あって桐光会調布病院にお世話になることになりました。東京都での常勤の勤務は初めてですが、京王線は中学高校時代に井の頭線で通学していました。調布はそれほどゴミゴミしておらず、コンパクトに色々なものがまとまっていて、また、交通の便も良く大変気に入りました。



大学の医局は肝胆脾外科で、研究は「脾癌化学療法の薬剤耐性と個別化」を主に行っていました。当院におきましては、肝胆脾領域のみならず、胃・大腸の消化管や、鼠経ヘルニア等さまざまな領域にわたり、特に腹腔鏡を用いた手術に貢献していきたいと思います。私に出来ることがありましたら、遠慮なくお申し付けください。少しでも当院の力になるべく、頑張っていく所存です。宜しくお願い申し上げます。

副院長ご挨拶

医療相談員 一瀬 貴美さん

①ご出身は？

武蔵野市です。

②医療相談員（MSW）を目指した理由は？

病院に来られる方のサポートが出来ればと思い、MSWになりました。



③マイブームは何ですか？

ポイントセチアの育成です。温度等の問題が多く育てることが難しくて困っていますが、はまっています。

④患者さんに一言お願いします！

皆さまの不安や悩み、困りごとを軽減するために、一緒に考えていただきたいと思っています。先輩の相談員4名と一緒に、皆さまの支援に努めます。よろしくお願ひいたします。

新入職員
インタビュー



HPVワクチンについて

HPVワクチンって聞いたことあるけど、何だろう？そう思われる方も多いと思います。今回は、HPVワクチンについてご説明します。

子宮頸がんとウイルス感染

子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。HPVは女性の多くが一生に一度は感染するといわれるありふれたウイルスで、感染してもほとんどの人ではウイルスは自然に消えますが、一部の方でHPVが無くならず持続感染となり、子宮頸がんになると言われています。

子宮頸がんは子宮の出口（頸部）に出来るがんで、若い世代のがんのなかで多くを占めます。日本では毎年約1.1万人の女性がかかり、毎年約2,900人の女性が亡くなり、約1,000の方が30歳代までにがんの治療のために子宮を摘出し、妊娠できなくなると言われています。

HPVには200種類以上のタイプがあり、子宮頸がんの原因となるタイプは少なくとも15種類あることがわかっています。HPV感染は主に性的接觸によって起こりますが、HPVに感染してもすぐにがんになる訳ではなく、数年から十数年かかり、一過性感染、持続感染を経て前がん病変（異形成）となり子宮頸がんに進行すると言われています。進んだ前がん病変（異形成）やがんの初期の段階で見つかると、子宮の一部を切り取る手術が必要となります。また、子宮頸がんの病状によっては子宮を摘出する必要があり、妊娠できなくなります。

HPVワクチンと子宮頸がん検診

子宮頸がんで苦しむために私たちが出来ることは、HPVワクチン接種と子宮がん検診の二つです。

日本ではワクチンの定期接種として小学校6年から高校1年相当の女子を対象に子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐワクチンを接種しています。欧米諸国では接種開始から約10年以上が経過し、ワクチン接種によりHPV感染や前がん病変の発生が有意に低下していることが報告され、将来的には子宮頸がんで亡くなる方がほぼなくなると言われています。日本でも接種後10年でHPV16/18型への感染率が有意に低下したとの報告もあり、日本においてもワクチンの効果は実証されました。

日本人の子宮頸がんの50～70%の原因是HPV16/18型と言われているため、ワクチン接種のほかに子宮頸がん検診でがんを早く見つけて治療することも大切です。

20歳になったら2年に一度、子宮頸がん検診を受けることをおすすめしています。

HPVワクチンの効果とリスク

現在日本では、公費で受けられるHPVワクチンは2種類で、同じワクチンを合計3回接種します。（ワクチンにより接種のタイミングが異なります）公費で受けられるワクチンは子宮頸がんを起こしやすいHPV16型と18型の感染を防ぐことができ、これにより子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。また、接種により抗体は少なくとも12年維持される可能性があることがわかっており、現在も期待される効果について研究が続けられています。

HPVワクチン接種を1万人が受けると、受けなければ子宮頸がんになっていた約70人ががんにならなくて済み、約20人の命が助かる試算がされています。

日本では9年前に接種勧奨がされていましたが、接種後に続く体の痛みなどの【多様な症状】の訴えが相次ぎ不安が広がったため、積極的な勧奨が控えられました。その後専門家の検討や国の調査研究などにより、ワクチン接種をしていない方でも同様の症状があることがわかり、積極勧奨が再開されました。

接種後の副反応として、新型コロナウイルスのワクチンと同様の筋肉注射のため、多くの方に接種部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が生じます。まれに呼吸困難や荨麻疹などの重いアレルギー症状や手足の力が入りにくいなどの神経系の症状も起きことがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動（体の一部が勝手に動いてしまう）といった【多様な症状】も報告されています。これらの多様な症状は、近年WHOから提唱された【予防接種ストレス関連反応】によって生じた症状と考えられています。この反応は、子宮頸がんワクチンに限らず、様々なワクチンに関連し、ワクチンの接種前・接種中・接種後にストレスや不安などを感じ、それをきっかけに痛みを感じて体が変化して生じると言われます。急性ストレス反応としてソワソワ感、不安感、呼吸困難感など、さらに接種後時間をおいて（何日か経過）脱力、麻痺、四肢の不自然な動きなどの症状が生じると言われます。そのため、接種に際しては担当する医師が丁寧に説明し、ご本人が理解し、納得して接種することでストレスや不安を軽減することが肝要で、当院では接種をご希望される方には、一度ご来院いただき、ワクチンの理解を深めていただいてから接種を行うようにしております。

H
P
V
ワ
ク
チ
ン



接種後の重篤な症状はワクチンを受けた1万人あたり6人と報告されていますが、ワクチンが原因となったかわからないものも含まれ、接種後短期間で回復した症状なども含まれています。

ワクチンは合計3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れた場合はそれ以降の接種を止めることができます。また、接種後に心配な症状が生じた場合は、まずは接種した医療機関にご相談いただき、症状によっては専門医療機関の受診をお勧めしますが、現在都道府県ブロック単位で診療体制が整えられています。

キャッチアップ接種について

HPVワクチン接種は日本では2009年12月に承認され接種が始まりましたが、2013年から約9年間HPVワクチンの積極勧奨が差し控えられていました。そのため、この間に定期接種対象であった、現在17~26歳の女性を対象にキャッチアップ接種として無料接種が勧奨されました。キャッチアップ接種は2022年4月からの3年間(2022~2024年)の期限付きで行われます。キャッチアップ接種の対象者は【誕生日が1997年4月2日~2006年4月1日】の女性の中でHPVワクチンの接種の機会を逃した方です。また【誕生日が2006年4月2日~2008年4月1日】の女性に関しても、順次2023・

2024年にキャッチアップ接種が可能となります。現在17~26歳の女性には住民票のあるすべての自治体より個別に接種券等が郵送されます。

最後に

子宮頸がんは悪性腫瘍の中でも自分で予防できる数少ないがんの一つです。ぜひこの機会に、大切な娘さん、お孫さんの接種をご検討ください。

当院産婦人科外来では公費接種としてガーダシルを、また個別接種としてシルガード(9価HPVワクチン)の接種を行なっております。

接種や詳しい説明をご希望の方は、産婦人科外来までお問い合わせください。

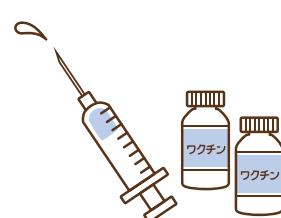


オミクロン株対応 ワクチン接種開始について

当院では10月4日(火)からオミクロン株対応コロナワクチン接種を開始しています。対象は4回目接種の方です。なお、今回のコロナワクチンに関しては、インフルエンザワクチンも同時接種が可能です。ご希望の方は予約時にお申し出ください。

※1回目・2回目の方は従来のワクチンとなります。

※3回目の方は10月18日よりオミクロン株対応接種可能となります。



接種日

毎週火曜日・水曜日

時間

13:30~15:30

ご予約専用ダイヤル

080-4845-1545

(平日9:00~15:30・土曜9:00~12:00)
電話番号をよくお確かめのうえ、おかげ間違いのないようお願いいたします。



訪問看護ステーション

「調布訪問看護ステーション」は0歳から100歳以上まで、看護やリハビリを必要とする方々のお家に訪問しサービスを提供しています。

医師や関係職種と連携して、「本当は家に帰りたい」という想いを持ちながら、「家族に迷惑をかけてはいけないから」と想いを伝えられないご本人様や、「家に連れて帰ってあげたいけど、家で見る自信がない」というご家族様の想いなどに寄り添い、あたたかな看護とリハビリを提供いたします。

小児・難病レスパイト事業も行っています。

何かお困りごとがございましたら、遠慮なくご相談ください。

お問い合わせ

042-443-9765

訪問看護でご提供するサービス内容

全身状態の観察

- 血圧・体温・酸素量などの測定
- 健康状態の観察
- 異常の早期発見



医療処置・医療機器の管理・指導

- 尿道留置カテーテル、他各種のカテーテルの管理
- 点滴・在宅酸素・呼吸器の対応を主治医と連携して行う
- 床ずれ・熱傷など瘡の処置



小児看護

- 入浴
- 発達支援・リハビリテーション
- 医療ケア（呼吸器管理・吸引・胃ろうのケア）
- 療育相談
- 家族の休息や行事に合わせた長時間訪問



療養指導・家族支援

- 療養環境の整備
- 介護指導・アドバイス
- 保清介助（入浴・清拭・排便ケア）
- 内服確認・アドバイス



訪問看護の一環として行うリハビリテーション

- 筋力訓練
- 日常生活動作の維持・向上訓練
- 歩行訓練など



主治医と一緒にサポート 緩和ケア

- 癌などの痛みに對しサポート
- 利用者様の思いに沿ったケア対応
- 自宅での看取りをサポート



主治医が必要と認めた方であれば、どなたでもご利用できます。

病気・障害でお困りの方、介護利用の方、医療機器を使用している方、小児医療ケア、難病をお持ちの方など

頻度は、ご利用者様の病状などについて、ケアマネジャーと相談しながら決めていきます。

例えば、1週間に1回・60分未満など

介護保険に応じて、ご負担額が決まります。

契約の際、自動料金振替のお手続きをお願いいたします。

通所リハビリテーション

わたしたちフロリール調布では、多種専門職が誇りと喜びを持ち、「毎日を大切」に明るく丁寧なチームケアに取り組んでいます。

リハビリ専門職は、ご利用者の身体機能の維持向上・生きがいのある在宅生活の継続ができるように、個々の身体状況に応じた個別リハビリを提供しています。

リハビリ以外では、ご利用者が「主役」となれるように心がけています。

例えば入浴では、すべてを介助するのではなく、ご利用者ができることはご自分で行えるような声掛けを行い、気持ちよく入浴していただけるよう支援しています。

また、月に数回ある手作りおやつでは、ご利用者自身におやつを作っていたいっています。家事をしていた頃を思い出しながら楽しんでいる方や、「自宅でも作ってみたい」と意欲的な方、「片手でもできる」と自信を持たれる方など、様々な体験をしていただけるよう工夫しています。

人生の中ではほんの少しの時間かもしれませんのが、ご利用者が「主役」となり、生きがいのある時間を過ごしていただけるよう、職員一同、皆さまのご利用をお待ちしておりますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ 042-484-2627



訪問看護ステーション

フロリール調布

